

# 電子機器事業

ポートフォリオの拡充により  
新たな事業領域を開拓し、  
長期安定的な成長へ

取締役副社長執行役員  
電子機器事業本部長  
岩屋 良造



## コア・コンピタンス

超精密加工、垂直統合、グローバル展開、大量生産といった当社のDNAに加え、センサー、光学、磁気などエレクトロニクス分野のコア技術を融合。厳しい品質特性が要求される自動車向けや、短期間での品質・数量を両立した垂直立ち上げが要求されるスマートフォン向けなど、広範な市場に製品を展開。生産の自動化／半自動化や従業員の教育訓練の整備など、顧客要求に応じたダイナミックな拠点体制も競争力の源泉となっています。



浜松工場

### 機会

- 省エネルギーや静音化に貢献する小型で精密なモーターの需要増加。
- 自動車のEV化によるモーターの新規分野への参入機会が拡大。
- 産業機械／FA／ロボット市場の拡大によるアクチュエータ、冷却FAN等の需要増加。
- レゾナントデバイスをはじめとする新規市場の形成。

### リスク

- 中国における低コストな競合メーカーの台頭。
- 原材料および部品価格の高騰による収益構造への影響。
- 新技術による既存技術の代替が想定以上のスピードで進展。(HDD市場、スマートフォン市場)

### 機会とリスクへの対応

- 原材料および部品価格の高騰を受けた売価の是正。
- 成長市場では注力分野での需要増に対応し拡販。
- 成熟市場では設計変更や材料費低減を含めたコスト削減等で競争力を強化。
- 相合による強みをいかし他社に先行した製品開発により事業機会を獲得。

## 2022年3月期の概要

モーターは原材料高騰の影響を受けたものの、HDD向けスピンドルモーターの販売増、自動車向けモーターの用途拡大により通期で大幅な増収となりました。LEDバックライトはスマートフォンにおける採用モデルの減少に伴う需要減により、売上高は減収となりました。この結果、売上高は3,710億円、営業利益は216億円、営業利益率は5.8%となりました。

## 2023年3月期の見通し

モーターは自動車市場の回復とさらなる用途の拡大により成長が加速し、大幅な増収増益を見込んでいます。エレクトロデバイスではLEDバックライト採用モデルの台数減少による減収減益を見込んでいます。センシングデバイスは売上高はほぼ横ばいも収益性の改善による増益を見込んでいます。

## 中期事業計画

### モーターを収益の柱として成長が加速

#### 主なポイント

- 1 モーター  
車載モーターのトップライン成長が収益性を一段と引き上げる
- 2 電子デバイス  
レゾナントデバイスが収益寄与
- 3 センシングデバイス  
車載向けおよび産業向け(成型機等)の拡販

## 次の10年を見据えた基本戦略

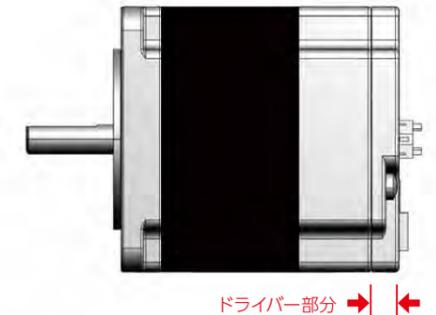
電子機器事業の基本戦略は、コア事業であるモーターおよびセンサーの基盤強化に向けて、サブコア事業で創出したキャッシュをコア事業に再投資し利益を最大化させることです。技術変化が速く収益機会の大きいサブコア事業においては、徹底した固定費軽減策と事業リスクの適正な見極めをすることが重要な課題となります。長期安定的な成長に向けて、ポートフォリオの拡充や他の8本槍製品との相合による新たな事業領域の開拓をおこないます。

## 『「相合力」でオンリーワンを目指す』戦略

モーター事業で製造販売するステッピングモーターは、電気信号により一定角度で回転するモーターで、自動車や高級家電などさまざまな製品に使用されています。当社では、電子機器事業の超精密HBステッピングモーターとミツミ事業のモータードライバーICを組み合わせた機電一体型モーターを現在開発中です。この製品は小型化・低消費電力化が求められる繊維機械や医療用ポンプなど幅広い用途に使われることを想定しています。当社の機電一体型モーターはモーターと制御基板を一体化させたことにより、製品の小型化を実現いたしました。また、磁気センサーを使ったベクトル制御を搭載、これによりクローズドループ制御を実現し、より効率的にモーターを稼働させることができ、機械全体の消費電力を低減することができます。

このように、当社保有の技術を相合し製品特性を向上することで、高効率化と低消費電力化に貢献してまいります。

\*位置決め制御方式の一種



機電一体型モーター  
(イメージ画像)

## 社会的課題解決製品の開発と部品供給

医療機器向け製品においては、非常に高い品質が求められるのみならず、近年は遠隔操作やクラウドといった「テクノロジーの進化」への対応、医療従事者の不足による「自動化」への対応、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大を受けた「非接触」への対応といった新たな社会的課題への対応がますます重要になっています。当社では10のコア技術や8本槍製品に代表される多様な技術・製品ポートフォリオによりこれらの社会的課題に貢献する製品の開発に取り組んでいます。

例えば、軽度の閉そく性睡眠時無呼吸症候群(OSA)の症状に対して、当社のレゾナントデバイスによって睡眠を妨げない程度の軽く静かな振動を与えることができます。

口や鼻を覆うことなく使用できる手軽なウェアラブル製品に搭載されることで、OSAに悩む方々の睡眠の質の低下・寝不足を緩和することができる可能性があります。

このように、当社が保有するさまざまな技術、製品群を相合し社会的課題の解決に貢献する製品の開発に取り組んでまいります。



レゾナントデバイス  
(イメージ画像)